

絵本の系譜Ⅱ 世界の絵本がやってきた ブラティスラヴァ世界絵本原画展

ブラティスラヴァ世界絵本原画展は、スロヴァキア共和国の首都ブラティスラヴァで開催される、世界最大規模の絵本の展覧会です。世界各国のベテラン作家たちの作品が一堂に集い、その個性を競い合います。

今回の展覧会では、2005年に開催された同展の受賞作品や日本人作家による出品作を展覧します。また、スロヴァキアの隣国チェコにおける、1920～30年代を中心とした子どもの本約70冊を紹介しながら、併せてチェコ絵本の黄金期に活躍した作家の原画など約70点を展覧します。

子どもだけでなく、大人も楽しめる多彩で豊かな絵本の世界を、存分にご堪能ください。



ハン・ピョンホ『鳥になりたい』(原画)部分2004
金のりんご賞 © HAN Byoung-ho

会 期：5月27日(日)まで

開館時間：午前9時30分～午後5時

※入館は午後4時30分まで

※会期中無休

入 館 料：一般…700円 大学・高校生…500円

小・中学生…300円 ※20名以上は10%割引

KOSUGI HOAN
MUSEUM OF ART,
NIKKO



小杉放菴記念日光美術館

『南総里見八犬伝』 と足尾

「南総里見八犬伝」は、江戸時代後期の読本作家、滝沢(曲亭)馬琴が著した伝奇小説です。これまでに、何度も映画やテレビドラマ化されているので、ご存じの方も多いのではないのでしょうか。

この作品は、室町時代に実在した安房の国(現在の千葉県南部)の里見家をモデルに、仁義礼智忠信孝悌の八つの珠を持つた八人の武士(八犬士)の活躍を描いたものです。

さて、皆さんは、この小説の舞台として、足尾の庚申山が登場するのをご存じでしょうか(足尾地域では有名かも知れませんね)。足尾地域が登場するのは、お話の後半です。八犬士の一人で信の珠を持つ犬飼現八が、仲間を探して旅を続け、足尾地域まで

本を楽しむコラム

図書館へ 行こう!



やつてきたところから始まります。茶屋の主人から、「この先は妖怪が出るかもしれない」という話を聞いた現八が、庚申山の山道で道に迷っていると、話のとおり妖怪が現われます。現八は木の上に隠れ、護身用に持っていた矢を放ちます。

矢は妖怪の左目に当たり、妖怪は一目散に逃げていきます。そして、現八がさらに道を進むと、今度は幽霊が現われて…。

この後、この妖怪をめぐるお話がさらに続いていくのですが、それは読んでのお楽しみとしま

しよう。

図書館では、「南総里見八犬伝」を大人から子どもまで楽しめるよう、現代語訳されたものも取りそろえています。ぜひ、あなたも、地元が舞台となった、古き時代の伝奇ロマンに浸ってみてはいかがでしょうか。